

2016年12月12日 全6頁

# Indicators Update

## 10月機械受注

前月比+4.1%。高水準な非製造業の受注増が全体をけん引。

エコノミック・インテリジェンス・チーム  
エコノミスト 前田 和馬  
エコノミスト 小林 俊介

### [要約]

- 2016年10月の機械受注統計によると、国内設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比+4.1%と3ヶ月ぶりに増加し、市場コンセンサス（同+1.1%）も上回った。製造業は同▲1.4%と減少したものの、非製造業（船舶・電力を除く）が+4.6%と増加し、全体を押し上げた。
- 需要者別に受注を見ると、製造業は前月比▲1.4%と3ヶ月連続で減少した。このところの製造業の受注は、弱い動きが続いている。非製造業（船舶・電力を除く）は前月比+4.6%と3ヶ月ぶりに増加した。非製造業の受注動向は比較的高い水準を保っており、堅調な推移をしていると評価できる。一方、外需は前月比+1.9%と3ヶ月連続で増加した。
- 設備投資の先行指標である機械受注は先行き、横ばい圏で推移する展開を予想している。依然力強さを欠く内需を背景として、製造業においては企業収益に頭打ち感が見られており、設備投資に対する慎重姿勢は強まりつつある。ただし、タイトな労働需給を背景とした合理化・省力化投資に加えて、非製造業においては、経常利益が高水準にあること、交通・物流インフラ整備向けの投資が期待されることなどが、今後の機械受注を下支えするプラス要素といえよう。

図表1：機械受注の概況（季節調整済み前月比、%）

	2015年		2016年									
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
民需（船電を除く）	▲9.7	1.0	15.0	▲9.2	5.5	▲11.0	▲1.4	8.3	4.9	▲2.2	▲3.3	4.1
コンセンサス												1.1
DIR予想												1.0
製造業	▲6.6	▲3.0	41.2	▲30.6	19.7	▲13.3	▲6.4	17.7	0.3	▲4.0	▲5.0	▲1.4
非製造業（船電を除く）	▲12.7	4.5	1.0	10.2	▲6.9	▲3.9	▲0.3	2.1	8.6	▲1.9	▲0.9	4.6
外需	▲20.1	▲2.2	▲29.4	6.3	28.5	▲6.9	▲14.8	10.8	▲11.7	6.8	1.4	1.9

（注）コンセンサスはBloomberg。

（出所）内閣府統計より大和総研作成

## 10月機械受注：高水準な非製造業の受注増が全体をけん引

2016年10月の機械受注統計によると、国内設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比+4.1%と3ヶ月ぶりに増加し、市場コンセンサス（同+1.1%）も上回った。製造業は同▲1.4%と減少したものの、非製造業（船舶・電力を除く）が+4.6%と増加し、全体を押し上げた。

### 製造業：3ヶ月連続で減少。このところは弱い動き

10月分のデータに関して、需要者別に受注を見ると、製造業は前月比▲1.4%と3ヶ月連続で減少した。このところの製造業の受注は、弱い動きが続いている。

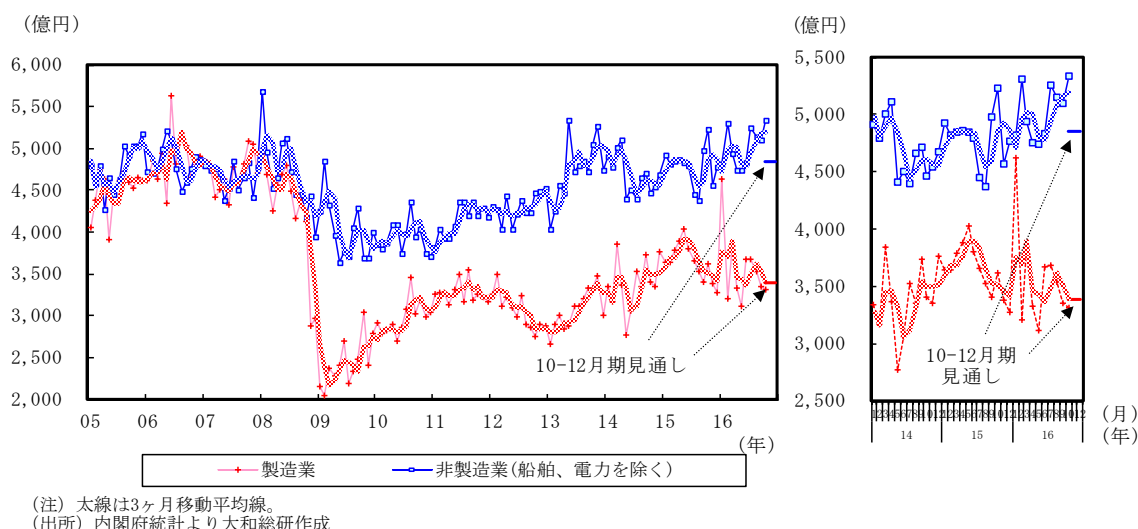
内訳を見ると、「電気機械」（前月比▲26.2%）のほか、「非鉄金属」（同▲69.6%）、「はん用・生産用機械」（同▲11.2%）などが前月から減少した。電気機械は、足元では横ばい圏で推移していたが、今月は大幅減となった。世界的なスマートフォン需要の低迷などを背景に、同業種向けの機械需要が減退していることから、先行きも慎重に見ておく必要があるだろう。非鉄金属については、前月の大幅増による反動から、減少に転じたものとみられる。一方、「化学工業」（同+57.3%）や「石油製品・石炭製品」（同+333.0%）、「金属製品」（同+59.2%）などが前月から増加した。

### 非製造業：3ヶ月ぶりの増加で、高水準の受注を維持

非製造業（船舶・電力を除く）は前月比+4.6%と3ヶ月ぶりに増加した。このところ、非製造業の受注動向は比較的高い水準を保っており、堅調な推移をしていると評価できる。

内訳を見ると、「その他非製造業」（前月比+56.0%）、「農林漁業」（同+26.7%）、「通信業」（同+13.4%）などが前月から増加した。その他非製造業については、前月の反動から大幅に増加した。一方、前月から減少したのは「運輸業・郵便業」（同▲38.2%）、「卸売業・小売業」（同▲28.8%）、「金融業・保険業」（同▲17.5%）などである。運輸業・郵便業は、3ヶ月ぶりの減少となり、これまでの増加基調に一服感がみられる。

図表 2 : 需要者別機械受注(季節調整値)

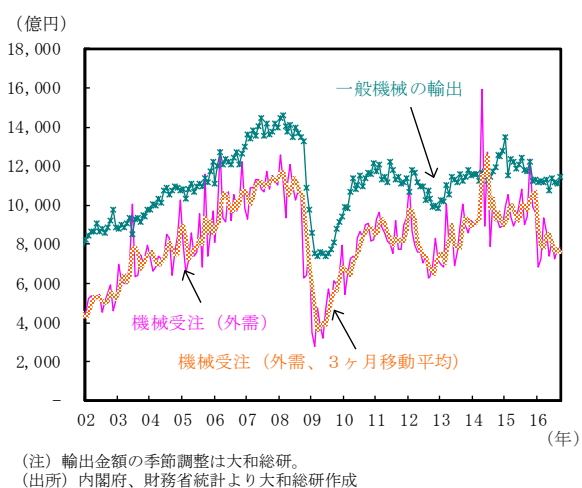


### 外需：3ヶ月連続の増加

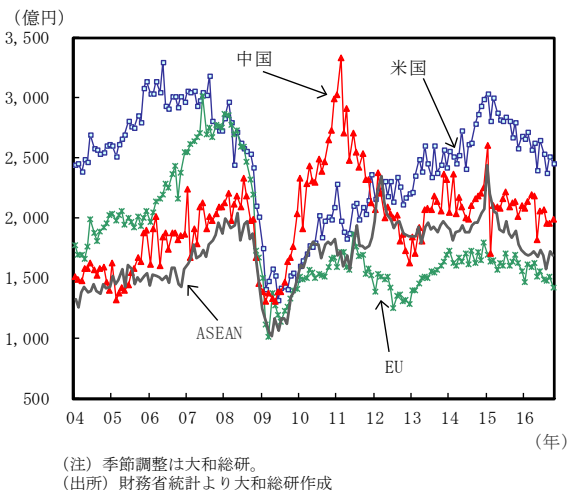
外需は前月比+1.9%と3ヶ月連続で増加した。足元の外需は堅調に推移している。内閣府によれば、航空機、原動機等で減少したものの、電子・通信機械、産業機械等で増加した。

11月に実施された米国の大統領選挙で共和党候補のドナルド・トランプ氏が勝利した後、金融市場では円安・株高が進行しており、短期的には円安が輸出金額を下支えするであろう。一方、中長期的には、内向き志向の政策を掲げる同氏の政策運営によって、世界経済の不透明感が強まる可能性がある。先行きの外需は、メインシナリオとして緩やかに持ち直していくと想定しているが、引き続き慎重に見ておきたい。

図表 3 : 一般機械の輸出と機械受注の外需



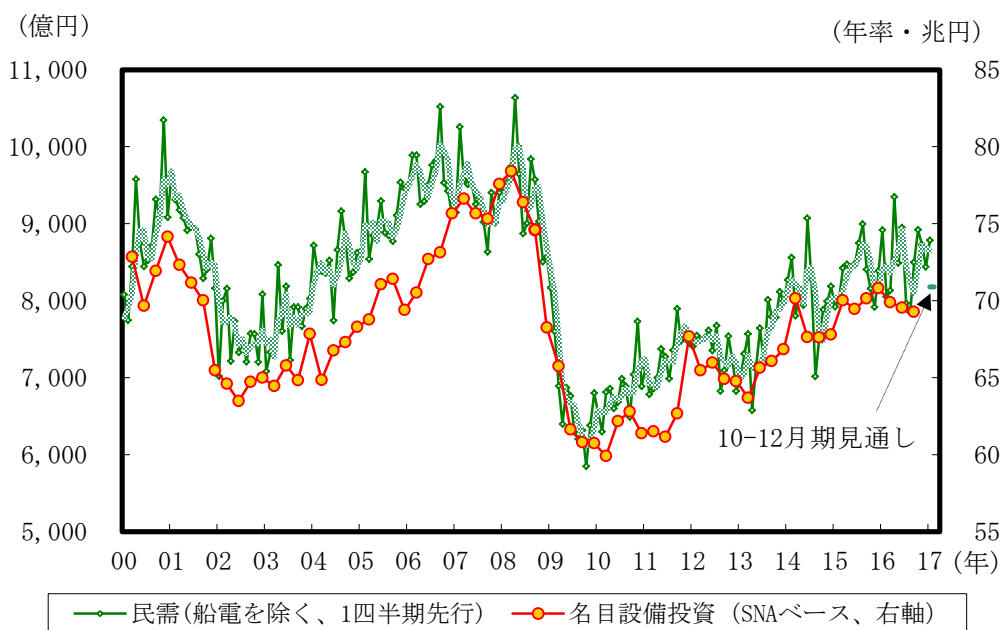
図表 4 : 一般機械の輸出金額(主要国・地域)



## 先行きの機械受注は横ばい圏の推移を予想

設備投資の先行指標である機械受注は先行き、横ばい圏で推移する展開を予想している。依然力強さを欠く内需を背景として、製造業においては企業収益に頭打ち感が見られており、設備投資に対する慎重姿勢は強まりつつある。ただし、タイトな労働需給を背景とした合理化・省力化投資に加えて、非製造業においては、経常利益が高水準にあること、交通・物流インフラ整備向けの投資が期待されることなどが、今後の機械受注を下支えするプラス要素といえよう。

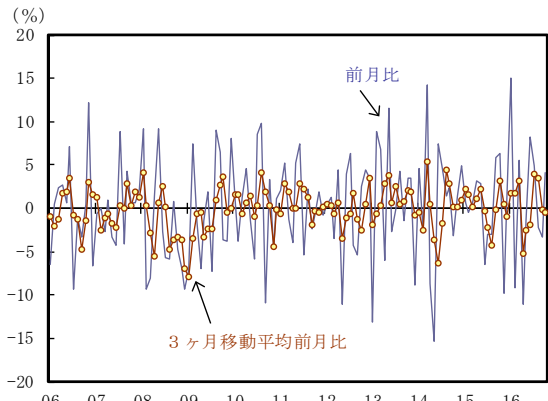
図表 5：機械受注の民需と名目設備投資（季節調整値）



(注) 太線は3ヶ月移動平均線。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

概況

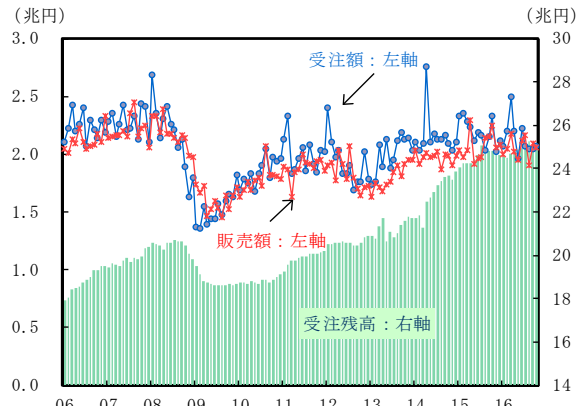
民需（船舶・電力を除く、季節調整済み前月比）



(出所) 内閣府統計より大和総研作成

(年)

船舶を除く合計（季節調整値）

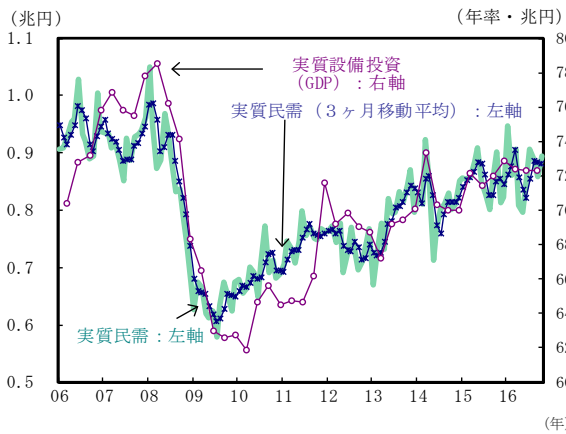


(兆円)

(兆円)

(年)

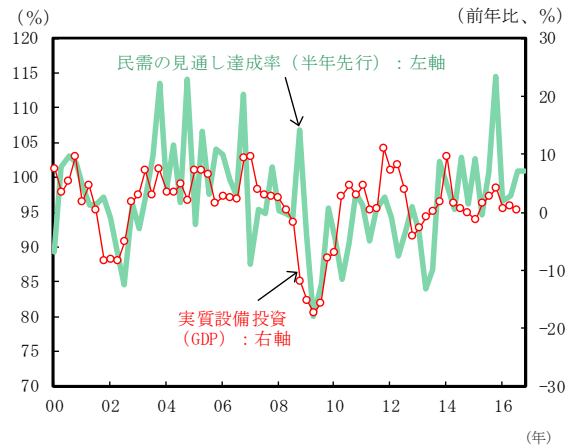
実質機械受注と実質設備投資（季節調整値）



(注) 実質民需は、船舶・電力を除くベースで、企業物価指数（日本銀行）の国内資本財によって実質化。  
(出所) 内閣府、日本銀行統計より大和総研作成

(年)

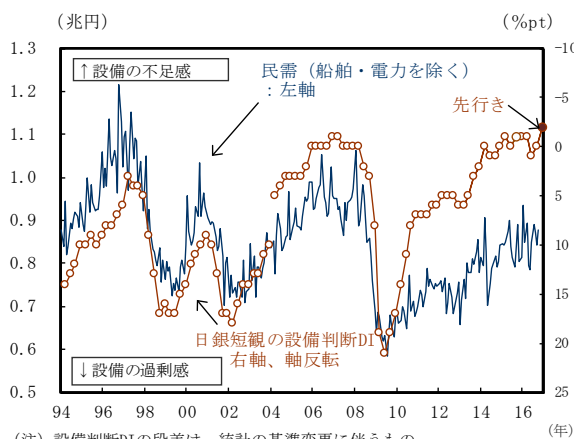
民需（船舶・電力除く）の達成率と実質設備投資



(前年比、%)

(年)

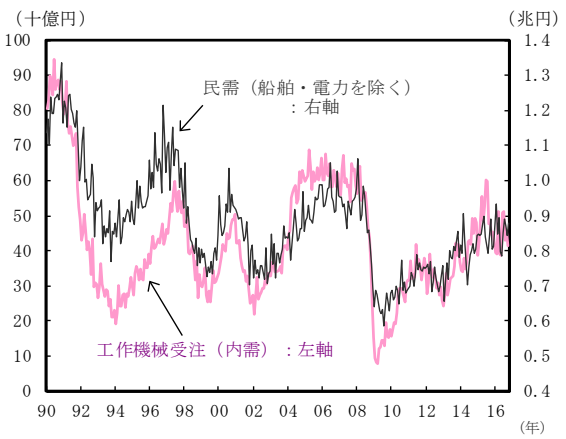
機械受注（季節調整値）と設備判断DI



(注) 設備判断DIの段差は、統計の基準変更に伴うもの。  
(出所) 内閣府、日本銀行、日本工作機械工業会統計より大和総研作成

(年)

機械受注(季節調整値)と工作機械受注

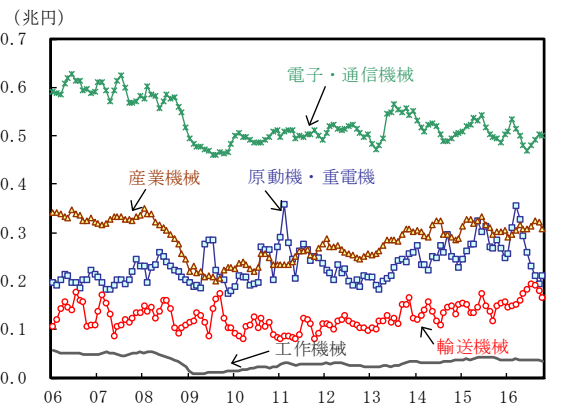
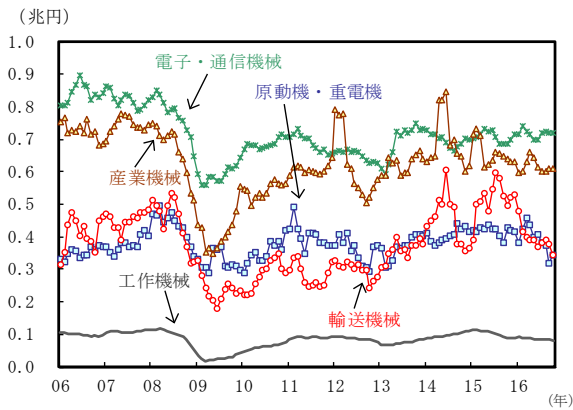


(兆円)

(年)

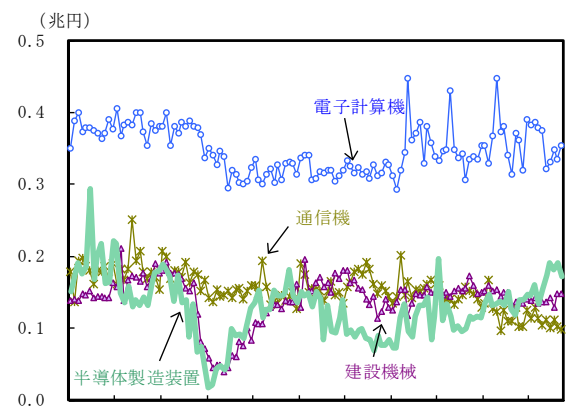
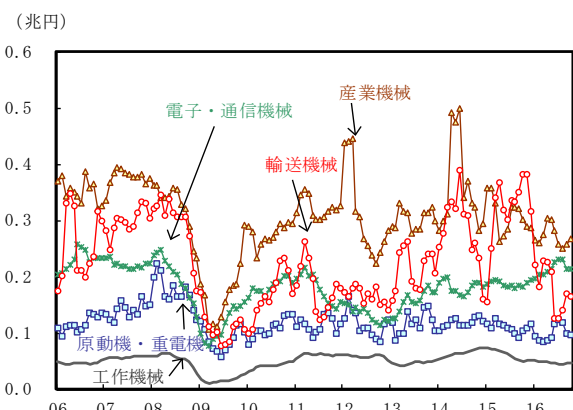
**機種別と製造業・非製造業の動向**

**機種別・大分類の受注額（季節調整値）**      **機種別・大分類の受注額【内需】（季節調整値）**



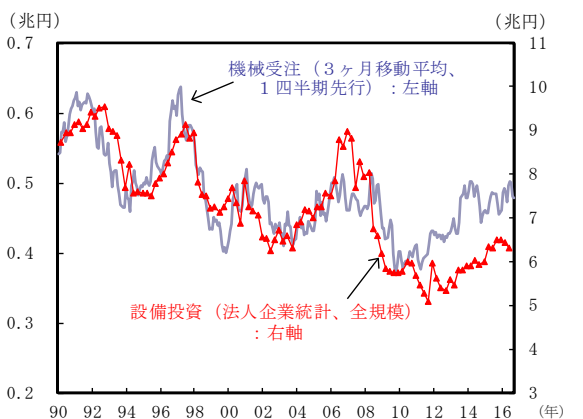
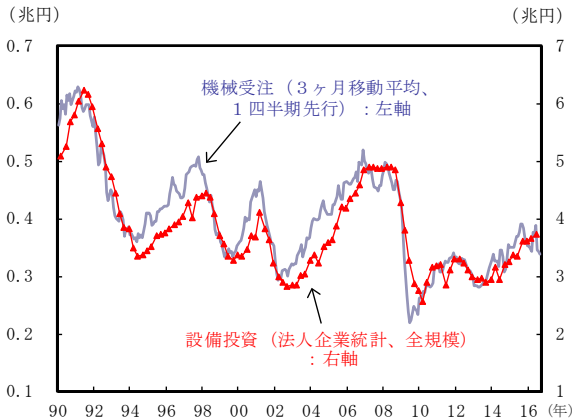
(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。  
 (出所) 内閣府統計より大和総研作成

**機種別・大分類の受注額【外需】（季節調整値）**      **機種別・主な中分類の受注額（季節調整値）**



(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。  
 (出所) 内閣府統計より大和総研作成

**機械受注と設備投資【製造業】（季節調整値）**      **機械受注と設備投資【非製造業（船舶・電力除く）】（季節調整値）**



(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成